

桑折町の15歳のめざす姿

桑折町においては、0歳から15歳の義務教育修了時までの、子どもの15年間の成長を見据えた教育を実施しています。その最終的な目標について、保護者・地域・こども園・学校等の教育にかかわる者すべてで共有するとともに、発達段階に応じて子ども自身にも理解させることにより家庭・地域・学校等のそれぞれの教育の充実を図り、桑折の子どもたちの望ましい成長の実現をめざします。

高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとしている15歳

～社会的自立の基礎を身に付け、よりよい生き方を追求するとともに、社会の形成者としての基礎的資質を身に付け、共に生きようとしている15歳～

家庭

知 学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている

変化の激しいこれからの社会において、一人一人が自立して生きるとともに、社会の発展を支えることができるように、確かな学力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ▶より良い学習習慣・家庭習慣を身に付け、自ら進んで学習に取り組むことができる
- ▶基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得している
- ▶習得した知識や技能をもとに、自ら考え、判断し、表現している



地域

徳 郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献しようとしている

ふるさと桑折町に生まれ育つことに感謝しながら、今後もよりよい家庭・地域・社会を築いていくことができるよう、郷土愛・礼節・思いやりを身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ▶歴史と伝統を尊び、郷土に誇りを持っている
- ▶自他を思いやり、よりよい人間関係を築いている
- ▶社会の一員として決まりを守り、礼節を重んじる態度を身に付けている

体

心身ともに健康で、たくましく生きるための体力を備えている

一人一人が生涯を通して生き生きとした生活を送ることができるように、心身ともに健やかで、どんな困難にも負けない精神力や体力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ▶健康で安全に生きていくための知識や能力を身に付けている
- ▶望ましい生活習慣や食習慣を身に付けている
- ▶運動、スポーツに親しみ、心身の健康保持増進を図り、たくましい体力を身に付けている

こども園

学校

教育委員会では、この度、町校長会とともに、昨年度1年間かけて学校教育の目標である「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」という視点から、子どもたちの現状をその姿や各種調査結果等をもとに分析し、改めて本町の教育でめざす「15歳の姿」を策定いたしましたので、皆さんにお知らせします。

東日本大震災、原発事故から3年が経過しました。本町の子どもたちは、震災・事故発生後の厳しい教育環境に耐え、保護者の皆さまや先生方、地域の方々を支えられながら、級友と共に助け合い、協力し合いながら困難を乗り越え、心身ともにたくましく成長してきています。

本町では、これまでも0歳から義務教育修了時までの15年間の成長を見据え、一貫性のある教育に努めてまいりましたが、これまでの教育方針を踏襲しながら、「めざす姿」をこども園、小・中学校が共有し、それぞれの年齢・学年の現状に即した具体目標を掲げることで、教育内容を充実させ、育ちと学びをしっかりとつないでいきたいと考えています。そして、15歳の春には、夢や希望の実現をめざし努力できる子どもたち、やさしさと正義感に満ち溢れた子どもたち、自立して社会に役立ち、貢献できる子どもたちとして送り出したいと考えています。

保護者の皆さま、地域の皆さま、この取り組みは幼稚園や学校だけでなくできるものではないかもしれません。皆様のご理解とお力添えをよろしくお願いたします。

〈教育長 安藤重男〉

「育ち」と「学び」をつなぎめざす
こども園、小・中学校の共有目標

『15歳の姿』策定

教育基本法の前文等では、「民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献すること」を願って、「豊かな人間性と創造性」を備えた人間を育成し、「郷土を愛する」とともに、「伝統を継承しつつ新しい文化の創造を目指す」教育の推進を掲げています。

これを受け本校長会としては、これからの社会（震災後の福島）を生きる桑折町の子どもたち一人ひとりに、自身自身の能力や創造性を伸ばすことに加えて、人と人とのかわりの中で社会の一員としての役割を果たしながら生きていくことや、郷土愛を持ち、郷土の文化等の担い手ともなれるような豊かな人間性や社会性を培うことが大切だと考えました。

具体的には、本町の子どもたちが健やかな心身の下に、学習が単なる知識量や記憶力に留まらず、問題を見つけた解決策を考えたり、責任を持つ

『義務教育修了時 15歳の姿』を求めて



桑折町小・中学校長会長
蓬田 吉穂
(醸芳中学校長)

て最後までやり遂げる力、人とのコミュニケーションを円滑にできることや他人を思いやる心、社会に奉仕すること、新しいことに取り組む意欲や勇気など、いわゆる「知・徳・体」をバランスよく子どもたちにはぐくみたいと思われました。特に、この度の震災を受けて郷土の復興に向けて、「意志（Will）」を意図的にはぐくむことが大切だと考えました。

義務教育修了時において、子ども一人ひとりが「自立して社会で生きていく基礎」を身につけていることは必須であります。そして、子どもたちに「確かな学力・豊かな人間性・共に生きていく力」が育っていることが条件になると思えます。

桑折町の子どもの確かな学力の向上とともに人間性や社会性を培い、高い志を持って自らの将来を切り拓いていこうとする「15歳の姿」を、幼小中が一体となり、具現していきたいと思えます。